



橋本健一郎氏

## 自動車、販売増も生産は減少

橋本金属 橋本健一郎氏リポート①

・アルミ

八月前半は、OPECが  
石油市場などについて九月  
に非公式協議を行う方針を  
明らかにしたことから二週間  
ぶりの高値水準四三ドル

へ上昇したこと、七月の米雇用統計が予想を上  
回る内容だったことからUPなどのプラス材料  
もあつたが、七月中旬に一〇七円近辺だった  
ドル円が一気に一〇〇・一〇一円台に上昇し  
たこと、中国国家統計局の六月のPMIが五九  
月ぶりに四九・九と五〇を割った事、を嫌気しL  
ME銅相場はDOWN、八月十六日時点で四・  
七六四ドル(セツル)と月初価格より一二一・五  
ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、原油はイラクの輸出量増加やナイ  
ジエリアの停戦合意など供給増加のニュースがあ  
る一方で、九月下旬に開く石油輸出国機構(O  
PEC)の非公式会合で主要産油国が生産調整  
で合意するのでは?などのプラス材料もあつた  
が、中国の七月の銅輸出が前年比五倍! LM  
E在庫も一日で一・八〇〇t増と約八%の  
増加したこと。アジア地域の在庫が増えていて中  
國の需要低下が原因との観測を嫌気し下落、九  
月五日現在で、後半スタート価格から一三九ド  
ルDOWNの四・六〇七ドル。銅建値五二万円  
となつた。

### ◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇三・三四→一〇三・九二(円)。

### ◆自動車販売台数

日本自動車工業会によると、自動車  
販売台数(軽除く)は前年比五・七%増の二二万  
三、二七三台。

◆新設住宅着工戸数  
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数  
は前年比八・九%増の八万五、二〇八戸であつた。  
◆貿易関連指標  
輸入  
輸入は電気銅が前年比九五・三%減の九八t、  
スクランプが四四・五%増の一萬〇、九三四t。  
■前月の国内指標  
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)に

## 銅スクラップは輸出減、輸入増

よれば、前年比〇・四%増の六万五、九四〇t。  
日本電線工業会発表の出荷速報(推定)による  
と、銅電線出荷量は、前年比六・六%減の五万  
六、八〇〇tであった。

### ■概況

七月の四輪車生産台数は八〇万七、一六五  
台で、前年同月の八四万一、九一八台に比べて  
四・一%の減少となり、二カ月連続に前年同月  
を下回つた。七月の車種別生産台数は、乗用車六  
八万九、四五〇台で二・六%の減少となり、二カ  
月連続のマイナス。トータルは一〇万五、四八六台  
で二三%の減少となり、一五カ月連続のマイナス。  
バスは一二万一、一九九台で四・五%の減少とな  
り、八カ月連続のマイナス。

### 【自動車販売】

八月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二  
二万三、一七三台で前年比五・七%増と、一カ  
月ぶりプラス。うち乗用車五・五%増、貨物六・  
七%増、バス九・三%増。

### 【住宅着工戸数】

八月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二  
二万三、一七三台で前年比五・七%増と、一カ  
月ぶりプラス。うち乗用車五・五%増、貨物六・  
七%増、バス九・三%増。

### 【分譲住宅】

前年同月比では六カ月連続の増加(前年同  
月比六・〇%増、季節調整値の前月比では一  
六・八%増)。

### (貸家)

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同  
月比一・一%増、季節調整値の前月比では一  
六・八%増)。

### (分譲住宅)

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同  
月比九・一%増、季節調整値の前月比では一  
六・八%減)。

### 【分譲マンション】

前年同月比では三カ月ぶりの増加(前年同  
月比五・九%増)。

### 【分譲戸建住宅】

前年同月比では九カ月連続の増加(前年同  
月比一二・一%増)。

(六面へ続く)

## 今月の銅相場は在庫の動向などが焦点 為替は九月の米利上げ有無などが焦点

(四面より続く)

### 【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比〇・四%増の六万五、九四〇tと三カ月連続増加。このうち、内需は五万四、八四〇tで〇・八%減と、三カ月ぶりマイナス。輸出は一万一、一〇〇tで六・四%増と、二カ月連続プラス。銅条は二万一、二八〇tで九%増と、三カ月連続プラス。銅棒は一万四、九五五tで〇・四%増と、三カ月連続プラス。

### 【電線】

前年比六・六%減の五万六、八〇〇t。うち国内は七%減、輸出が八・三%増。出荷先別では、通信一・八%増、電力九・七%減、電気機械七・八%減、自動車四・二%増、建設電販一〇・二%減、その他内需一・九%増。

【輸出】電気銅輸出が二・六%増の四万八、五五三t。銅スクラップは一%減の一萬九、七一七t。

【輸入】電気銅が九五・三%減の九八t。スクランプは四四・五%増の一萬〇、九三四t。

### 【見通し】

・自動車は生産が四・一%減。八月の国内販売台数が前年比五・七%増。生産が二カ月連続マイナス、販売が一カ月ぶりプラス。販売が再びプラスに！

・住宅着工の動向については、前年同月比で先月の減少から再びの増加となつておらず、利用関係別みると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は三カ月連続プラスの前年比〇・四%増。需要の多い銅条が、三カ月連続プラス。黄銅棒も三カ月連続プラス、輸出が二カ月連続プラス。需要の多い銅条がプラス。黄銅棒が三カ月連続プラスも一万五千t台割り込んでおり、今後の回復が望まれる。

・電線は輸出が一年ぶりプラスの八・三%増。内需は七%減。自動車向けが三カ月連続プラスの四・二%増。

・銅輸出は内需減による国内玉の供給過剰から地金は増加、スクラップは発生難から減少。

・銅輸入は発生難からスクラップが増加した。

### 【スクラップ需給予想】

流通在庫は、お盆休み前のリスク売りから大半の在庫はほぼ出たのではないか、残りの在庫については、その後建値が二万円下落、現在は一万UPしたもの、売り込みも少なめで安定的な発生は期待できない。

自動車生産、販売や伸銅品、電線などでマチマチの指標が出ており、今月も生産増加に伴う需要増は期待薄。

### 【価格・為替予想】

今月は、LME銅在庫とG二〇に左右される。

LME在庫に関して、八月前半まで一八万t近辺で推移していた在庫が九月三日現在で三一万tと約三〇万tまで急増した、特にアジア地域での増加が多く、中国の過剰在庫の放出懸念が取りざたされている。このまま増え続けるのか？三〇万tをピークに減少していくのか今後の動向に注目。

G二〇に関しては、中国の過剰生産・供給への提言と為替政策がポイント。

前記表題について中国が一定の理解を示すのではないか？為替に関してはやはり通貨の切り下げ競争への警告あり円高阻止は難しいのではないか？

それらを踏まえた九月の銅価格は、LME銅在庫が三〇万tをピークに二〇万t程度まで減少し、G二〇で中国が過剰生産などについて一定の理解を示した場合、四、八〇〇ドルを予測。いずれかの場合は四、六五〇ドル。下値はいづれの条件も達成できなかつた場合、七月安値の四、五〇〇ドル。

為替は八月の雇用統計で非農業雇用者数は一五万一千人と予想の一八万人以下だったことからの九月の米利上げ観測の後退や、G二〇で為替介入へのけん制が予想されることから円高が続くのではないか。それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行えず、九月の米利上げがなかつた場合一〇〇円台(TM)を予測。両条件が揃わなかつた場合八月安値の一〇四円を予測。

銅建値に関しては四九〇～五四〇円程度と予測している。